

今回はちょっと趣向を変えて、私のミュージカル映画DVDのコレクションから、スタンダード曲やジャズに関係するおすすめタイトルのいくつかを紹介したいと思います。日頃は音楽だけを聴いている方が多いと思いますが、映像を見ながら聴くと音だけでは分からない色々な世界が見えてきて別の楽しみ方ができます。

混同されている場合も多いのですが、「ミュージカル」と単に言う場合は、ニューヨークのブロードウェイで上演された音楽付きの劇の舞台を指します。いわゆるスタンダード曲はほとんどがミュージカルの挿入歌として作られました。人気が出たミュージカルを映画化したものがミュージカル映画です。

・アニーよ銃を取れ (Annie Get Your Gun)

1945年にブロードウェイで初演されロングランとなった同名ミュージカルが1950年に映画化された作品です。ストーリーは、西部育ちのじゃじゃ馬である(ガンマンならぬガンウーマン?)のアニー・オークリーが、その凄腕を買われて銃撃を見世物とする劇団にスカウトされ、劇団ヒーローのフランク・バトラーに一目惚れし、腕前がバトラー以上であることから嫉妬を招くも、ハッピーエンドとなるという筋立て。単純で、いかにもアメリカ人が好みそうなストーリーですが、今見ても感情移入できる面白さがあります。

原作をミュージカル化するに当たり、曲づくりについては複雑な経緯がありました。作曲作詞の黄金コンビだったリチャード・ロジャースとオスカー・ハマースタイン2世がプロデュースしているのですが、あまりの多忙のためか自身では曲を作らず、ジェローム・カーン(作曲)とドロシー・フィールズ(作詞)に任せようとなりました。

ところが、カーンが急死してしまったため、アーヴィング・バーリンに依頼しました。バーリンはホワイト・クリスマスの大ヒットで高名な作曲家となっていました。偉大な先輩のカーンに代わって引き受けることを最初は躊躇したそうです。しかし最終的には引き受け、素晴らしい挿入歌を何曲も作るようになりました。ただ、舞台上演時のポスターを見るとロジャースとハマースタインが届けする(present)と上に大きく書いてあって、バーリンの名前が下にあるのはちょっと気の毒です。

「アニーよ銃を取れ」舞台ミュージカルのポスター

<http://jazzlydian.com/mailmagazine/annieposter.png>

アニーの銃の腕前を知った団長以下一座の面々が、アニーに一座に加わるように口説く場面で歌われるのが「ショウほど素敵な商売はない」、文字通り素敵な歌です。ここでは、ブロードウェイでアニー役を演じた名歌手エセル・マーマンの歌を聴いていただきましょう。ロングランになったことが納得できる歌唱力です。

ショウほど素敵な商売はない (Ethel Merman)

[https://www.youtube.com/watch?v=aVMXw\\_y7jyI](https://www.youtube.com/watch?v=aVMXw_y7jyI)

そして、以前のメルマガでも一度書きましたが、アニーが加わるまで花形ガンマンのヒーロー役だったフランク・バトラー(ハワード・キール)にアニーは一目惚れしていたのですが、旅の途中の汽車のデッキでアニーが「恋って素晴らしいものだって皆言うわね」とバトラーに聞きます。この場面で歌われる美しい曲が「They Say It's Wonderful」です。

ジョニー・ハートマンがコルトレーンカルテットをバックに歌う「They Say It's Wonderful」

<https://www.youtube.com/watch?v=vGc2AMUUAAsY>

最初この曲を聴いた時、舞台装置としてなんとなくマンハッタンのロマンチックな場所を想像してしまいましたが、実際に歌われたシーンを見て驚きました。バトラーが好きな一心で一座についてきた字も読めない田舎娘のアニーはドタバタの連続。やっと移動の汽車のデッキでバトラーと二人きりになり、恋をしたことがないアニーが「恋って素晴らしいっていうけど、どんなもの？」とバトラーに聞くシーンで歌われます。それなりにロマンチックな場面ではあるのですが、自分が想像してたシーンとの乖離がすごく大きかった

です。魅力的な曲というのは一人歩きして聴く者にあるイメージを与えてしまうものだと  
いうことを知らされました。

・ハロー・ドーリー！

バーブラ・ストライサンド演じる主人公のドーリーは仲人業を仕事にする未亡人。自分が  
惹かれている実業家のホレスにアプローチしながら、ホレスの姪の恋も応援するという、  
わりとごちゃごちゃした奇妙なストーリーですが、タイトル曲と主演のバーブラ・ストラ  
イスンドの魅力が弾けています。この場面では、タイトル曲を歌って大ヒットさせたルイ  
・アームストロングも登場して歌い、演奏します。このシーンを見て聴くための映画とい  
ってもいいかもしれません。作曲者はジェリー・ハーマンです。

<http://jazzlydian.com/mailmagazine/hellodolly.jpg>

もともとはやはりブロードウェイの舞台上で1964年に上演され大ヒットした演目です。そ  
れまでのブロードウェイは黄金期を過ぎてやや停滞していた感がありますが、「ハロー・  
ドーリー！」は、ミュージカル関係の大きな賞であるトニー賞を総ナメし、2,844回上演  
されました(2,000回以上は3作品しかない)。主演女優はキャロル・チャニングスで、画  
質は悪いですが彼女がラスト近くでタイトル曲を歌う映像が残されています。

<https://www.youtube.com/watch?v=MOQwxup-jv4>

この大ヒットに目をつけたハリウッドが1969年にバーブラ・ストライサンドを主演に映  
画版を作りました。舞台と同じ64年にタイトル曲を歌って大ヒットさせたルイ・アームス  
トロングも客演ということで話題性は十分だったのですが、興行的には大失敗となりました。  
私見では、ウォルター・マッソー演じるドーリーの相手役のホレスに魅力が乏しいこ  
とが理由の一つではないかと思えます。「ドーリーがこんなに魅力的なのに、思いを寄せ  
る相手がこの人でいいの？」って感じです。

ただ、タイトル曲の素晴らしさと、曲が繰り返し演奏されるラスト部分でのダンスを含  
めたシーンは十分楽しめます。それと何と言ってもバーブラ・ストライサンドの魅力です  
よね～。バーブラが歌うタイトルソングは舞台版のチャニングスよりずっと好きです。彼  
女はいくつものミュージカル映画に出演していますが、「晴れた日に永遠が見える (On  
A Clear Day)」も良いです。これも、ストーリーは代わっていますがタイトル曲が素晴ら  
しく、ジャズシンガーは今でもよく歌います。

タイトル曲を歌うシーンはyoutubeでは動画が見つかりません。曲だけ聴いても楽しめ  
ると思えますが、DVDで見ることをおすすめします。

<https://www.youtube.com/watch?v=Ae0Hg6VLPc0>

・巴里のアメリカ人

次はガーシュイン兄弟の曲を使って成功した「巴里のアメリカ人」です。「Our Love  
Is Here To Stay」や「I Got Rhythm」など、現在でもよく演奏される名曲が入っている  
、なかなか魅力的な映画です。これは舞台がなく、最初から映画用に作られました。セッ  
トはちょっと安っぽいですが、ストーリーに違和感はなく、当時の歌って踊れる大スター  
である主演のジーン・ケリーのタップダンスも楽しめます。

主人公は当てもなく巴里に移り住んだ売れない絵描きという設定で、第二次世界大戦後  
にアメリカ人の間に生まれたヨーロッパへの憧れのようなものがこの作品の背景にあるの  
かもしれません。作品賞を含むアカデミー賞6部門を受賞しています。

封切りは1951年で、作曲したジョージ・ガーシュインはとうに亡くなっていましたが、  
ガーシュインの曲だけを集めて見事に各シーンに合わせて使っています。タイトル曲はも  
ともと、1937年に早逝したガーシュインが28年に作曲した交響詩で、映画のオープニング  
で効果的に使われています。交響詩ですから歌詞はありません。

次に出てくる名曲はジーン・ケリーがパリの子どもたちに歌いながら英語を教えるシー

ンで歌われるI Got Rhythmです。ここでケリーはお得意のタップダンスを披露しながら実に楽しそうに踊り歌っています。

<https://www.youtube.com/watch?v=HtRM13xBSUk&t=7s>

この曲は1930年にミュージカル「ガール・クレイジー」のために書かれたAABA形式・32小節の曲ですが、アドリブに非常に適したコード進行のために、多くのジャズミュージシャンがこの曲のコードの上にテーマメロディーを書きました。有名なのはチャーリー・パーカーのAnthropologyやソニー・ロリンズのOleoといったところで、現在でもよく演奏されています。

この曲のコード進行は、(アイ・ガット)リズムのコード進行(change)という意味で、リズム・チェンジと呼ばれます。ドミソを始まりにコードが動いて、またドミソに戻るという意味で循環コードと呼ばれることもあります。

この曲はガーシュイン自身のピアノソロ音源が残されています。2分3秒付近からのサビ(AABAのBの部分)などは非常にジャズ的で、swing時代にジャズマンでもないガーシュインがこういう演奏をしていたとはちょっと驚きです。

<https://www.youtube.com/watch?v=uPRiM5JvYx8>

もう1曲、現在でもよく歌われているのがOur Love Is Here To Stayです。「ロッキー山脈が転がりジブラルタル海峡が崩れる日が来たとしてもそれはただの土くれ、でも僕らの愛は今ここにあるのさ」という、劇中歌ならではのアイラ・ガーシュインのロマンチックな歌詞をケリーの歌で聴いてください。

<https://www.youtube.com/watch?v=GxGgY9GFhN4>

ジャズスタンダードとの関わりでいうと、当時のクラシック分野でもピアニストとして活躍し作曲家でもあったオスカー・レヴァントという人自身がちょっとした3枚目役で登場し、味のある演技をしているのが面白いです。レヴァントは現在でも歌われる「Blame It On My Youth(若気の至り)」という曲を作った人で、親交があったガーシュインの伝記映画である「アメリカ交響楽」にも本人役で出演しています。

#### ・サウンド・オブ・ミュージック

このメルマガでも何度かご紹介したのでここでは簡単に触れますが、説明の必要もないくらい素晴らしい作品です。ミュージカル映画としてはもちろん、2012年に集計されたあらゆる映画の中で歴代興行収入ランキングで3位で、DVD販売やレンタルなども含めれば視聴した人数が最も多いとされているそうです。

<http://jazzlydian.com/mailmagazine/soundofmusic.jpg>

原作はナチスの支配から逃れてアメリカに亡命した音楽一家のストーリーで実話です。ほぼ同じストーリーの「菩提樹」というドイツ映画が先にあります。これはこれで面白いのですが、ミュージカル化に当たっては、「音楽が家族愛を取り戻す力となる」というストーリーが加わっていて、これが魅力を高めています。妻と死別して7人の子供を育ててきた軍人の父親があまりに厳格なため、家の中が凍りついたようになっているという状況に家庭教師のマリアが乗り込み、文字通り「Sound Of Music(音楽の響き)」によって家族に暖かさを取り戻していくというプロセスが感動的に描かれます。

ブロードウェイの舞台からこうした要素はあったわけですが、ここに主演女優ジュリー・アンドリュースの魅力、7人の子供達の愛らしさ、ロケ地ザルツブルグの風景を活かしたロバート・ワイズ監督演出の映像美、などが加わって最高のミュージカル映画になりました。

作詞作曲は、オスカー・ハマースタイン2世とリチャード・ロジャースの黄金コンビ。コルトレーンも取り上げたMy Favorite Things含め、ドレミの歌、エーデルワイス、冒

頭のタイトル曲など、素晴らしい曲ばかりで、ロジャースの才能には改めて感嘆するしかありません。騙されたと思って是非一度は見ていただきたいDVDです。この作品の魅力を解き明かした『サウンド・オブ・ミュージックの秘密』という本（平凡社・瀬川裕司著）まであって、これもなかなかおもしろいです。

冒頭でジュリー・アンドリュースが歌う「Sound Of Music」  
<https://www.youtube.com/watch?v=dVs71KOMnME>

---

#### Lydianからのお知らせ1 ソロピアノの魅力

Lydianではピアノソロを積極的にブックイングしているのですが、残念ながらまだ多くのお客様はソロに対してネガティブなイメージを持っていらっしゃるというのが実感です。確かに、楽器同士のインタープレイはないのですが、すべての音を一人でコントロールできるソロピアノは、すべての音が明瞭に聴き取れるLydianでは特に向いたフォーマットだとも感じています。百聞は一見に如かず、というわけで、先日Lydianで録音した西山瞳さんのソロピアノライブから、All The Things You Areを録画し、ご本人の同意を得てyoutubeにアップしたので、御覧ください。

[https://youtu.be/tvNc\\_R5qtKU](https://youtu.be/tvNc_R5qtKU)

---

#### Lydianからのお知らせ2 レクチャーライブ「コードを知ってジャズを聴く」のご案内

前号に続き、9/2(日・昼)のレクチャーライブのご案内です。ジャズのアドリブ（Improvisation）は、コードに基づいて演奏されるので、コードを理解するかどうかで、アドリブの楽しみ方は大きく変わってきます。理解といってもコードネームを覚えたりするのではなく、基本的な4つのコード（今回扱うのはこれだけです）はどのようにして生まれて来たのか、これらのコードから成り立つ曲がどのように聴こえるか、という点をわかりやすく解説します。自分自身コードの意味や響きをもっと早く知っていれば、よりジャズを楽しんで聴けたらという経験をしているので、より多くのお客様に聴いていただきたいと思っています。

9/2 13:30スタート

ご予約はこちら → <https://ws.formzu.net/fgen/S29023882/>

---

Lydian 中川貴雄